

[経営測定研究室]D. 林業労働に関する研究

吉良, 今朝芳
九州大学農学部附属演習林 : 事務員

<https://doi.org/10.15017/1456260>

出版情報 : 演習林研究経過報告. 昭和41年度, pp. 75-76, 1967-07-10. 九州大学農学部附属演習林
バージョン :
権利関係 :



18. 完了検査調書
19. 地拵事業仕様書
20. 造林事業()の(一部)完了検査について
21. 現場代理人及び担当技術者届
22. 監督員の通知について
23. 請負金内訳表
24. 実査復命書
25. 請負金内訳書提出について
26. 本件販売予定価格を下記の通り決定してよろしいか。
27. 立木販売予定価格評定調書
28. 事業費計算書(施設費以外)
29. 市価算出表
30. 用材薪材明細書
31. 市価算出表(薪材明細書)
32. 管内概要
33. 混合契約関係通達集

D. 林業労働に関する研究

吉 良 今 朝 芳

昭和41年度は育林労務の組織化に関する研究をおこない、とくに北海道演習林、宮崎演習林、粕屋演習林などの育林労務の実態を把握する一方、その地域の育林労務の実態調査も同時におこなった。その調査結果の一部は日本林学会大会研究発表並びに日本林学会九州支部大会研究発表で、下記のように報告をおこなった。

1. 育林労務の組織化に関する研究 (I)
 - － 宮崎県椎葉村の調査から －
2. 育林労務の組織化に関する研究 (II)
 - － 宮崎県椎葉村の調査から －
3. 育林労務の組織化に関する研究 (III)

－ 堀森林組合の労務班について －

4. 育林労務の組織化に関する研究 (Ⅳ)

－ 堀森林組合の林業労務班の問題点 －

また粕屋演習林久原団地の地元林業労働力の実態調査報告は演習林集報第21号 p. 71～76に発表している。

さらに宮崎演習林の林業労務の実態ならびに、その対策などについては、九州大学宮崎演習林第2次編成経営案説明書 p. 23、p. 55～56、p. 73～76 に発表している。

なお現在とりまとめ中のものに、昭和41年12月に森林管理学の学生実習でおこなった、福岡県粕屋郡篠栗町の育林労務者の実態調査がある。

この調査結果を個別調査票で大雑把にみると、その主な経営体は九州大学粕屋演習林、福岡営林署、篠栗町有林、財産組合との4つである。そこで林業労務の実態を経営体別にみると、

(1)九州大学粕屋演習林(6名)

すべて世帯主でその年令は1名の常用(37才)をのぞき、臨時雇はすべて60才代でその老令化が目立つ。賃労日数は293日(常用)を最高に154日が最低で、賃労日数がかかなり多くなっている。

(2)福岡営林署(9名)

すべて世帯主で占められており、その年令は30才代2名、40才代1名、50才代5名、60才代1名で、こゝでもかなり老令化している。賃労日数は100日以上1名、50～99日7名、49日以下1名となっている。

(3)篠栗町有林(22名)

世帯主および長男で占められており、年令は30才代4名、40才代7名、50才代8名、60才代3名となっていて老令化してきている。また賃労日数は100日以上7名、50～99日10名、49日以下5名となっている。

(4)財産組合(10名)

世帯主および長男で占められており、むしろ、こゝでは長男6名、世帯主4名となっている。その年令は20才代1名、30才代5名、40才代1名、60才代3名となっていて、60才代の3名をのぞくと、若さが目立ち、この10名全員が常用になっている。したがって賃労日数では、最高300日、最低で91日となっており、200日以上が3名、100日以上が6名で、100日以下は1名になっている。

この調査結果の詳細な報告は演習林集報第22号に投稿予定である。